



エンカレッジ 会員・ボランティア募集の お知らせ

エンカレッジではより多くの子ども達に学習の機会を与えられるよう、会員（団体・個人）、また、学習支援ボランティアを随時募集しております。

現在、学習支援期間にある生徒は55名ほどですが、今後も新たに通塾・学支援希望する児童生徒を、学校・福祉行政なども通し広く募集、呼びかけを行ってまいります。それに伴い、子どもたちの通塾費を会費の形でご支援いただく「NPO会員様」、学習や子どもたちの活動をお手伝いいただく「ボランティア・スタッフ」の募集を行っております。

○賛助会員(企業会員・個人会員)

月々の会費を、子どもたちの通塾費(月謝)に当てさせていただきます。
また、定期的に活動報告と『エンカレッジ通信』を送付させていただきます。

○ボランティア・スタッフ

子どもたちの学習支援をお願いしています。
基本教科(国数英)を中心にお願いしています。
(*テスト対策などで、他2科目をお願いすることもあります)

ご興味をお持ちいただけましたら、どうぞお気軽に下記のアドレスまでお問い合わせください。また、質問も受け付けております。

すでに会員の皆様も、お友達など周囲へ呼びかけ・ご紹介をお願いいたします。

エンカレッジ通信
第8号(通巻8号)
2011年7月発行

NPO法人エンカレッジ

〒904-0012

沖縄市安慶田1-1-4

仲座店舗2F

TEL/FAX : 098-938-4400

E-mail : honbu@enc-ok.jp

HP : http://www.enc-ok.jp



エンカレッジ通信

8号

2011年7月号(通巻8号)

中間テスト頑張りました!

5月中旬から末にかけて、各中学校では“中間テスト”が行われました。この定期テスト(中間・期末)の成績は受験に大きく影響し、その成績によって内申点が決まります。中学3年生にとっては、受験を意識する大切なテストです。テスト期間前にはエンカレッジで毎日テスト対策授業を行い、空き時間は自習スペースとして教室を解放しました(^v^)残って勉強する生徒の姿が見られました。

テストの結果は、よかった生徒、思うように点が伸びなかった生徒いましたが、それぞれ次のテストも頑張ると意欲を見せてくれました。

★ 席次1位 ★



R. Tさん(コザ 中3年)
S. Sさん(緑が丘 中2年)

テストでいつも中途半端な点数ばかりとっていましたが、中3になってから最初のテストでは5科目49.5点をとることが出来ました☆次は満点を目指して頑張ります
(R. T)

前は席次もダメだったし、得意な教科と不得意な教科で大きな差がありました。だけど今では席次も上位に入ることができて、全教科を好きになれたので、もっと上を目指せるように頑張ろうと思います。
(Y. A)



★ 席次UP ★

Y. Aさん (沖縄東中 3年)
123番UP(137→14)
R. Fさん (越来中 3年)
33番UP(78→45)

☆ 夏期講習 ☆



夏休み期間中、受験を控えている中学3年生たちに、毎日「夏期講習」を行っています。この時期にしか出来ない、中1・中2の復習をしています。

◇場所: 夢GO舎(銀天街教室)

◇時間: 14時30分から17時40分(4コマ)

※月・火・金の午後6時から通常授業

水・木の6時~9時までは自習スペースとして開放しています。

キャリア教育授業 「珊瑚植え付け体験教室」

講師：上原 直さん(NPO法人グローイングコーラル)

7月3日(日)キャリア教育授業の一環として、NPO法人グローイングコーラルの指導のもと、糸満市大度海岸にて講師・生徒数名とサンゴ植え付け体験をしました。



NPO法人グローイングコーラルの上原さんと、お手伝いをしている琉球大学院の佐々木さんから「沖縄の島は珊瑚から出来ている」事や「珊瑚の大切さ」などを学びました。よく見かける白い珊瑚(白化した珊瑚)は死んでいる珊瑚という事も教えてくれました。



海の中で植え付けをする前に、白化した珊瑚を使って1人ひとりロープにつける練習をしました。その後は、水中メガネの使い方を確認しました。



十分に練習をした後は、早速海に向かい実践!! 植え付けをする場所は、プールのように穏やかで浅い場所で、方言ではイノーと言います。ここではイノーでも生きていける種類の珊瑚を植え込みます!



植えた珊瑚の側に、自分のネームプレートも一緒に植えました。1年生、5年後、10年後...自分が植えた珊瑚が成長しているのか確認できるようになっています。



珊瑚の周りには熱帯魚もたくさんいて、珊瑚が多いという事はその海は綺麗という事でもあります。珊瑚が大きくなるためには、オニヒトデの駆除が必要で、大度海岸ではダイバーの方が定期的にオニヒトデを駆除し、地域の人みんなで珊瑚を守る為の活動をしています。

環境保全活動として植林は広がっていますが、まだ珊瑚の植え付け活動は知られていません。多くの子どもたちがこの活動を知ることで、珊瑚植え付け活動が広がる事を期待しています。沖縄の綺麗な海を残すためにも、一人ひとりが自分に出来ることを考えるととても貴重なキャリア教育授業でした。グローイングコーラルさん、ありがとうございました。

キャリア教育授業 「東日本大震災、被災地でボランティア活動をして」

講師：花城 大輔さん(沖縄青年会議所地区会長、アルソア花 代表取締役)

7月12日(火)キャリア教育授業を行い、30人以上の子ども達が集まりました。

今回、東日本大震災の被災地でボランティア活動がされている『花城大輔さん』をお招きし、被災地の現状やボランティア活動を通して学んだ事などをお話して頂きました。



震災直後、最初に岩手に行き現場を視察しました。テレビで見た通りでした。いろんなところに行き、いろんな人に会っても、話が出来なかった。みんな家を失ったり家族を失ったり、ひょっとすると両方失った人もいます。「私たちに何かできる事はありますか?」と聞いたところ、答えは帰ってくることは無く、自分たちにできる事は無いんじゃないか...と思いつつ視察を続けました。

そんな時、ある一人の青年に会う。彼は家も会社も流され、仕事仲間を3人亡くし、兄弟のように慕っていた人も亡くし、自分の母親も行方不明だった。そんな悲しみのどん底にいるはずの彼は、もの凄いな笑顔で...その時、僕はここで活動しようと決めたのです。

最初は現地の方に受け入れてもらえず、ボランティアセンターで何もする事無く3日間居続けたそうです。すると少しずつ会話が生まれ、コミュニケーションを深め、お互いの考えていることが言える関係を築くことができたのだそうです。そこから、被災している人達にサービスが提供できるよう、提案を重ね、被災者とボランティアを繋ぐシステム作りの活動を開始。



東北の人についても話して下さいました。ケガをしているにも関わらず「私は大丈夫、困っている人がいるはずだから、その人を助けて下さい。」と言った人、自分の食べ物を削ってでも御礼をする人のお話、大変なんだけど、それを人に見せようと思わない、彼らの誇り高さに触れ、東北の人に負けたくない、沖縄の人間になりたいと、心から感じたそうです。

● 私たちに何が出来るのか...

大切なのは、自分でこういうことがしたいと思って決めること、それを実行すること自分が主体性をもつことが何よりも価値があること、誰かの真似してやることも、ひょっとしたら大事なかもしれないが、やっぱり自分でやることも大事だと思う。やりたくない人はやらない方がいい、そういう選択をすることも有り。

今回、講話していただいて、たくさん大切な事を教えていただきました。相手を思いやって行動することは、ボランティア活動に限らず、生活の中でも人との接し方とはとても重要なことで、その大切さを再認識させられました。そして、自分がこういうことがしたいと思って決め、それを実行することが大切で、やりたくない人はやらない方がいい事、いつか大人になってからやる事も、それも自分で考えて決める、一つの価値あることだと教えられました。花城さん、ありがとうございました。